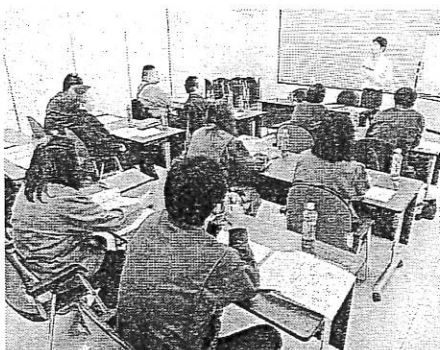


洋食器など金属加工

金属洋食器などの金属加工で有名な燕市で、製品の品質、ブランドに磨きをかける動きが活発になっている。燕商工会議所は、中小零細企業向けに品質管理に関する独自の認証制度を設ける。燕市内の3社は世界的に有名なデザイナーと商品の開発に乗り出した。新興国の台頭や円高で事業環境が厳しくなるなか、産地として競争力を高める。

13日、燕市の燕商工会議所で開かれた「TSOグループコンサル」。今年から始まる燕独自の品質認証制度「TSO(ツバメ・スタンダード・オーガニゼーション)」の取得を目指す企業8社が参加し、自社の品質管理の課題について専門のコンサルタントと熱心に話

燕ブランドに磨き



品質認証取得に向けコンサルタントが説明(13日)

長谷川挽物(ひきもの)製作所の長谷川克紀社長は「品質管理体制を整えないと大手企業との取引で門前払いされる場合が多い」と狙いを話す。TSOは国際規格の「ISO9001」を参考に、同商議所が昨年開発した。認証基準は購買や受注、製造管理など製造業の運営で重要な項目ごとに作成した。商工会議所の工業部会でTSO創設を提案した

ある企業は数百万円の費用がかかるISOを取得したが、燕市内では従業員が数十人という企業が圧倒的に多い。「手間や費用の面で、いきなり取得するのは難しい」(長谷川社長)。TSOでは、同商議所が昨年開発した。認証基準は購買や受注、製造管理など製造業の運営で重要な項目ごとに作成した。商工会議所の工業部会でTSO創設を提案した

▼商議所、独自の品質認証

▼有名デザイナーと新商品



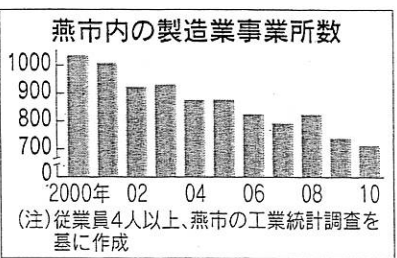
した後も、定期的にチェックを受けて、取り組みを維持する。TSOの取得を目指す厨房用品のイケダの池田弘社長は「TSOへの取り組みで年間1500万円の損失が出た」と期待する。デザイン性を高め、ブランド力に磨きをかけようとする燕の企業3社は有名デザイナーと共に商品の開発に取り組む。

「つちに」昨年からの燕の三宝産もぜひ売りたい。業、玉川堂、山崎金属工業の3社と商品作りに取り組む。厨房用品を製造する三宝産で一切継ぎ目がないように、燕の工業統計調査によると、燕市内の製造業の事業所数(従業員4人以上、2010年12月末現在)は713と10年前

「つちに」昨年からの燕の三宝産もぜひ売りたい。業、玉川堂、山崎金属工業の3社と商品作りに取り組む。厨房用品を製造する三宝産で一切継ぎ目がないように、燕の工業統計調査によると、燕市内の製造業の事業所数(従業員4人以上、2010年12月末現在)は713と10年前

他産地との連携課題

燕市の工業統計調査によると、燕市内の製造業の事業所数(従業員4人以上、2010年12月末現在)は713と10年前に比べ約3割減少した。バブル崩壊以降の日本経済の停滞に加え、生産拠点としての新興国の台頭、円高などもあり、



事業所、10年で3割減